

[基本教育科目/学習力の養成]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
スタートアッププログラムⅡ	NLA11_019	必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
山田 真衣 他	305	m.yamada	水曜日(12:00~13:00)		
授業の目的・概要	主体的に問題を発見し、問題解決に必要な情報を収集、分析、整理し、問題解決に向けた方法の検討と解決法の選択をすることができる能力を身につけることを目的とする。現代社会における重要な特定の主題や現代社会が直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、問題の発見方法と対策の設定方法について学習するとともに、Teamsを用いた遠隔授業や、人数を制限した学内演習を実施することで、文献による情報収集や、情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現するための基礎的な知識と技能について学習する。				
学習上の助言	自身の教養力向上を目的としているため、事前学習および討論の準備は各自で行い授業に参加すること。なお、ディベートの実践に関しては、議論の練習の場であるため、正しい日本語を用いること。人格否定や罵声を浴びせるなどの行為は行わないこと。				
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方2/監修:前原澄子遠藤俊子/金芳堂/2018				
参考書	必要に応じ講義中に紹介する				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	論理的な思考法を身につける	HSU(4)			
②	自分の意見を正確に伝える話し方や言葉遣いを身につける	HSU(4)			
③	根拠に基づく議論の仕方を選び、実践する	HSU(4)			
④	役割分担を通じてグループワークの進め方を学び、実践する	HSU(4)			
⑤	ディベートに必要な資料を収集し適切に活用できる	HSU(2)(5)(6)			
⑥	ディベートによる討論を通じ、傾聴力を養う	HSU(1)~(6)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション 「調べる」について学ぶ。	双方向型授業	授業の復習として、配布資料を見直しファイリングを行う。	0.5	
2	図書館での資料探しや文献の活用方法について学ぶ	双方向型授業	授業の復習として、配布資料を見直しファイリングを行う。	0.5	
3	文献取得方法について学ぶ	双方向型授業	授業の復習として、配布資料を見直しファイリングを行う。	0.5	
4	ディベートの目的と方法 ディベーターの役割、ジャッジの方法について学ぶ ※ディベートのテーマについての発表	双方向型授業	授業の復習として、配布資料を見直しファイリングを行う。	0.5	
5	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1	
6	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1.5	
7	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1	
8	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1.5	
9	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1	
10	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1.5	
11	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1	
12	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1.5	
13	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1	
14	ディベートの実践	演習 双方向型授業	テーマに関する下調べ (レポート用紙1枚以上)	1.5	
15	これまでの授業を振り返り、論理的に分析し、表現することの意義について学ぶ。	双方向型授業	授業の復習として、配布資料を見直しファイリングを行う。	0.5	
試	試験は行わない				

[基本教育科目/学習力の養成]

達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポータル	その他	合計
		0	0	60	20	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	10	0	10
	思考・推論・創造する力	0	0	10	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	20	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20
問題を発見・解決する力	0	0	10	10	0	20	
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
成果発表	①	✓	各討論チームは、講義期間中に複数回ディベーターとして討論に参加する。ディベートの決まりに従って、ワークシートにまとめたものを基に討議を行う。教員・討議の担当ではない学生(オーディエンス)が判定者としてジャッジ・ペーパー(判定票)に記入したものを評価の一部とする。				発表ごとに、教員より講評を行う。 ジャッジ・ペーパーについては、集計後に提示する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポータル	①		ディベートテーマごとに、下調べを行った資料をファイルし提出することで、事前準備が効果的に行われていたかを確認・評価する。				確認したファイルは、コメントして返却する。
	②						
	③						
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
その他	①		文献検討におけるグループワークやディベート中の授業内での取り組み姿勢や意欲を評価する。授業以外の学習や私語に関しては減点の対象となる。				問題のある行動をした学生には、直接口頭で減点することを伝える。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					
備 考							
<ul style="list-style-type: none"> ディベートの実践では、グループに分かれて議論を行います。議論を行うグループのみ大学へ登校し、それ以外の第三者は、自宅でTeamsを活用して議論を聞きます。 グループメンバー、議論の順番等は、授業内で発表します。 							
担当教員: ◎山田真衣、星野浩章							
教員の実務経験: 担当する看護教員は、保健師・看護師として実務経験が5年以上有したものが担当する。 実践的授業の内容: コミュニケーションの取り方や発表の仕方など、グループワークを中心としたアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。							
<ul style="list-style-type: none"> 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めません。 Teamsを使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨します。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。 							